

どうする？災害時（だ・い・ふく）

—災害時の教訓から 防災意識を高めよう—

R5. 9. 29（金）
荒川区立第三中学校
ほけんだより No.8

過去の大きな災害から得られた学びの1つに「流言（りゅうげん）」＝「デマ」つまり、根拠（こんきょ）もない無責任な「うわさ」が流れるから要注意！ということがあります。災害時には必ず「流言」は発生しうる。しかも、一度広まった情報を否定するのは難しい！

だからこそ、「情報を読み解く力」が大切です。デマをひろめないこと&一度じっくり考えてみるのが重要なのです。

いつでもどんな情報も（だ・い・ふく）で見極める習慣をつけておこう！

（だ）だれが言ったのか？（い）いつ言ったの？（ふく）複数の情報を確かめたの？



次の2つを参考にして、防災に関する意識を高めよう！

- ①情報を読み解く力（「だ・い・ふく」で見極める）をつけておく。
- ②シミュレーション（災害時、自分の周囲でどんなことが起こるのか）しておく。



<例> 都内で大きな地震が起こったときを想定してみよう！

ゆ えきじょうか くず ひがい

揺れ・火災・液状化・がけ崩れ・津波などの被害は、地震の起こり方や起こる場所、あるいはあなたが今いる地域の特徴によって、それぞれ変わります。

同じ災害であっても、あなた自身が置かれている状況によって、受ける影響は大きく異なるでしょう。

いざ地震が起こった際にどのような状況に置かれそうか想像して、日頃の防災対策に「東京被害想定デジタルマップ」や「東京マイ・被害想定」を活用しましょう。



東京都防災ホームページ
Disaster Prevention Information

にアクセスしてみよう！



「東京被害想定デジタルマップ」とは？

- ① 住んでいる場所や被災状況、建物の条件、世帯構成などの属性を入力することで、あなた自身に合った個別の被害想定を作成できます！
- ② 被害の状況を確認することで、平時や発災時に取るべき防災対応が分かります！

「東京マイ・被害想定」とは？

- ① 住んでいる場所や被災状況、建物の条件、世帯構成などを入力することで、あなた自身に合った個別の被害想定を作成できます！
- ② 被害の状況を確認することで、平時や発災時に取るべき防災対応が分かります！

<担当>主任養護教諭 山本康子